

観光と旅の研究会（たび研）

中山昭則

Akinori NAKAYAMA

1. 観光と旅の研究会とは

1-1 「たび研」それはどこからやってきたのか??

観光と旅の研究会（以下、たび研）は2010年7月1日に発足しました。しかし、たび研は顧問中山がこれまで11年間指導をしてきた「地理学研究室（以下、地理研）」を前身母体としています。

たび研の活動ポリシーは2つあります。一つ目は『研究成果は必ず公表すること』です。自分たちが出した成果は必ず第三者に評価してもらわなければなりません。それが研究の鉄則と教え込んでいます。ですから、必ず年一回は発表会を開催し、報告書（『研究年報』）は第8号まで刊行しています。もう一点は『現地調査を実践すること』です。これは前進の地理学を学ぶ研究室としては当然のポリシーですが、観光研究も現地調査は必須ですので、そのまま受け継ぎました。

さて、学生たちはこのポリシーのもと週2回程度の活動を行っています。研究会の活動方針はこれも地理研から受け継いだものですが、「共同研究」を基本としております。なぜ共同で一つのテーマに取り組むのかと言いますと、第一点として、研究過程において“協調性”“調整力”“交渉力”が身に着くということです。第二点として、公平な指導ができるということです。前者は皆で活動することによって、時として自分を抑えて研究活動を優先しなければなりません。また、研究を進めるにあたり学生同士や現地の方々との間で時間などの調整をする必要も生じてきます。そのために交渉することもあるでしょう。後者は、皆が同じテーマに取り組むことによって顧問は個々の学生に対して同等の

指導ができることとなります。

1-2 学生たちは何故成長するのか

以上のような活動方針の結果、学生たちは学年を重ねるとともにドンドン成長していきます。成長の秘訣は第一に現地調査です。現地調査は兎角「相手次第」という場面に多く遭遇します。不測の事態への対応というのは成長を促します。例えば、高知県の棚田保存調査に出向いた時などは、農家の方の都合で初日の夜に聞き取り調査をすることになりました。農家にしてみればお天気が最優先しますよね。学生たちは慌てて準備して聞き取り調査を行いました。こちらの都合だけではどうにもなりませんし、そのつど文句を言っていたら研究自体が崩壊してしまいます。また、聞き取り調査では相手はこちらの身なりや話し方で瞬時にこちら側の状況を見抜いてしまうことが多いです。ここで相手にされなかったら調査自体が駄目になってしまいます。

第二にはOB会の存在があるといえます。現在およそ50名のOBがおり、2年に一度総会（といっても宴会ですが…）を開くとともに、年一度の研究発表会には10名を超えるOB諸氏が参加してくれます。研究室によく顔を出してくれるOBもおります。現役世代はOB諸氏と頻繁に接することによって地理研時代の雰囲気を取り戻す機会があるというわけです。OBたちも研究発表会などで集まれば現役世代に“仕



写真1 棚田調査の聞き取り



写真2 地理研10周年記念会にて
2010年10月

事の厳しさ”などを話しています。また、最上級性（史学・文化財学科の学生）も5月末日の引退後も研究室を訪ねてきては、後輩の相談に乗ったり、顧問から卒論のアドバイスを受けてたりしています。

つまり、学生たちは上級生からのアドバイスやその上級生たちが顧問から逆に指導を受けている様子に接することによって、すぐ先の自分の姿を想像することができるわけです。その上、OBたちの話からもう少し先の自分の姿も想像できるというわけです。

2. たび研が今していること

2-1 ～日出町の観光資源調査～

たび研は研究活動面においても地理研の遺産を引き継いでおります。そのお蔭で2010年度には『別府大学創立60周年記念「フォーラム別府診断」』の事業に参加しないかとお声が掛かりました。その理由は「地理研時代から学生とともに現地調査をしているから」ということでした。この時は別府の観光を“診断する”というテーマを頂きました。このように調査・研究のお話を頂くのも、諸先輩方が地道に現地調査を重ね毎年報告書を発行するとともに発表会を開いてきたお蔭です。「学生主体の活動」ということでは学内でもそこそこ知られているという自負はあります。

現在は、日出町と別府大学が結んでいる「相互協力協定」に基づいて、日出町政策推進課からの受託調査『日出町の観光実態及び観光資源調査』を2011年8月から行っております。これは観光から日出町の可能性を探るというもので、観光資源として見込みのあるものを探しそれを活かす方策を提言するというものです。今は日出城下とその周辺について現地調査を進めています。今後は地域住民とのワークショップ開催や、観光周遊ルートの策定を行っていく予定です。



写真3 日出町調査のようす

2-2 学生個人のスキルアップ作戦

共同研究を円滑に進めるためには学生個々人のスキルアップは欠かせません。そこで幾つかの取り組みをしています。その一つは『キーワード演習』です。これは顧問が観光に関するキーワードを100個程用意し、学生は任意に1～100までの数字を言います。その番号のキーワードを顧問は口頭でのみ告げます。そして学生たちはその意味を調べてくるというものです。取り敢えず学生にとって情報は耳からしか入ってきません。そこからスタートです。かつては「ウタシナイ」「ヒタガネ」「アプトシキ」などを引き当てた学生は、それが何の事なのか直ぐには理解できず慌てたこともあります。

今年度は「旅行企画書」の作成にも取り組みました。今回は『長崎』を目的地として作成しました。その成果は報告書にて公表します。もちろん基本的な文献講読も行っています。今後は「旅行業務取扱管理者」受験も念頭に置いたスキルアップ作戦も展開しようと考えております。例えば、「全国鉄道路線名当てクイズ」「全国お祭り道中クイズ」「全国温泉地・国立公園・名勝当てクイズ」(何れも仮称)などを考えています。

3. たび研の近未来像

我々は地理研の遺産を最大限使うことは許されても、それを食いつぶすことは許されません。現在行っている日出町の調査によって未来の会員たちに何かを残さなければなりません。それが最大の使命でありましょう。現在のテーマはその未来の後輩たちへの遺産となりうるネタは山ほどあります。今後の調査の深化(例えば住民たちとの交流)によって学生たちのスキルは間違いなく向上するでしょうし、人との交流によって人格的にも優れた学生となっていくことでしょう。

でもちょっと待ってください!!君たちはその道中の厳しさを想像できる段階にまで成長しているのでしょうか?このことは絶えず振り返らなければなりません。

しかしながら、今最大の課題は「人員不足」です。新4年生は5月末日で引退してしまいます。現時点で残る学生は3名だけとなります。これは大変なことでもあります。新年度からは人材の補強をしなければなりません。この文章を読んで興味を持った方、是非中山研究室のドアを叩いてみて下さい。きっと新しいキャンパスライフを描けることでしょう。